



大妻多摩中学校

2019 (平成31) 年度

入学試験問題 (第3回)

【 プレゼンテーション入試 】

時間 10分

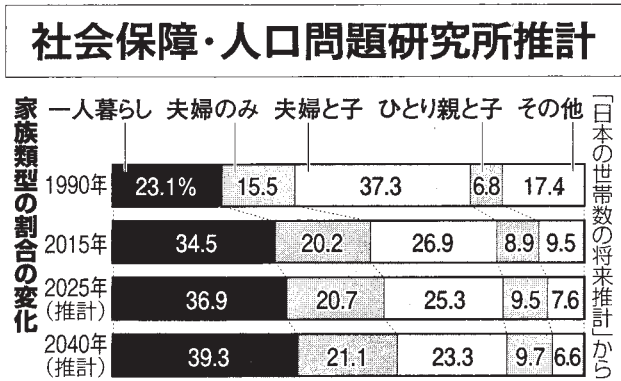
2月4日 (月)

【 注意事項 】

1. 問題は4ページまであります。
2. 5分以内の発表の準備 (日本語または英語を選択、50点) をしてください。
3. 発表では図や写真に限り使用してもかまいません。
4. 発表後、5分程度の質疑 (日本語、50点) を行います。

下の新聞記事と3ページ以降の【資料Ⅰ】・【資料Ⅱ】をもとに、次の二つの課題について5分以内の発表と、その発表に関しての質問に答えられるよう、準備をしてきてください。なお、新聞記事中の《……………※……………》部分は問題の都合上、省略しました。

2040年 一人暮らし4割に



2040年に全世帯に占める一人暮らしの割合が39・3%に達するとみられることが、国立社会保障・人口問題研究所が12日に公表した「日本の世帯数の将来推計」で分かった。《……………※……………》65歳以上の一人暮らしはほぼ4人に1人の22・9%になると予測している。

推計は5年に1度で、今回は15年の国勢調査をもとに40年まで出した。

15年の一人暮らし世帯の割合は34・5%（1842万世帯）で、40年は4・8%上がって39・3%（1994万世帯）になる。40年は1970年代前半生まれの「団塊ジュニア」が高齢者となり、高齢者人口がピークを迎えるころと重なる。高齢者の一人暮らしも、15年の18・5%から4・4%増える。高齢者の一人暮らし割合を男女別にみると、男性は15年の14・0%（206万人）から40年に20・8%

（356万人）に、女性は21・8%（420万人）から24・5%（540万人）になる見通しだ。

また、高齢者世帯全体では15年の1918万世帯から40年には2242万世帯に増え、割合は36・0%から44・2%に上昇。このうち75歳以上の世帯主の割合は46・3%から54・3%になり、半数を超す。世帯総数は少人数の家庭が増えるため、15年の5333万世帯からしばらく増え、23年に5419万世帯でピークとなる。その後は減少し、40年は5076万世帯となる。

同研究所の鈴木透・人口構造研究部長は「未婚の単身高齢者には生活を助ける家族がおらず、国や社会がどう支援の役割を分担していくかという議論が求められる」と指摘している。

（佐藤啓介）

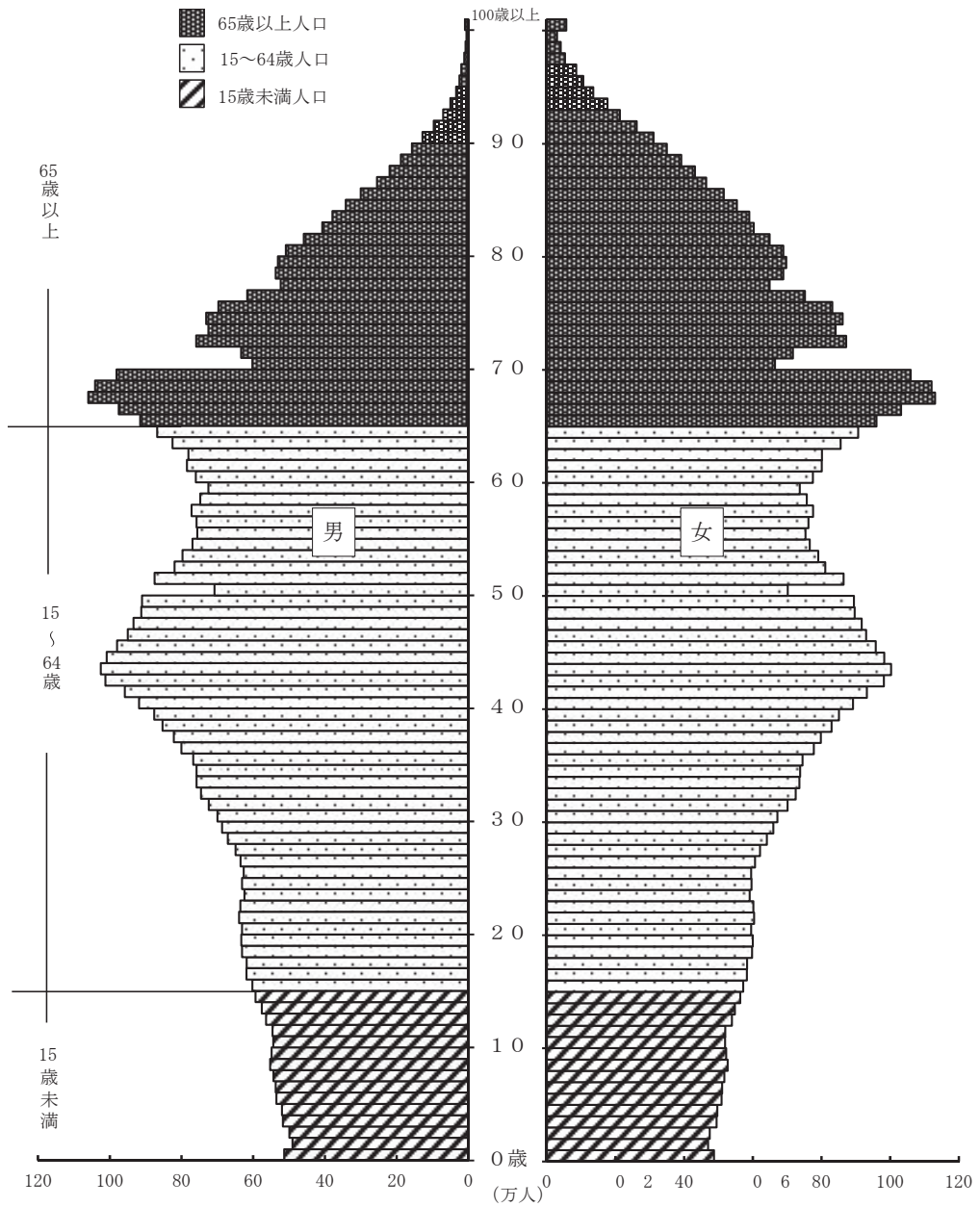
2018（平成30）年1月13日『朝日新聞』朝刊より
「承諾番号 18-4805」朝日新聞社に無断で転載することを禁じる

課題1：新聞記事によると、2040年には全世帯に占める一人暮らしの割合が、4割近くに達することが分かります。また、【資料Ⅰ】を分析するとある傾向が読み取れます。一人暮らしの割合が増えつつあること、【資料Ⅰ】から読み取れる傾向について、あなたはその理由や社会的背景をどのように考えますか。様々な点から発表しなさい。また、それを受けて、あなたが考える理想の人口ピラミッドを提示して、分かりやすく説明すること。

課題2：新聞記事や【資料Ⅰ】・【資料Ⅱ】の分析から読み取れる傾向も参考に、新聞記事中の波線部について、今後どのような対策が2040年に向けて必要だとあなたは考えますか。以下の「予想される未来社会」も参考にして、その対策を考え、理由も含めて発表しなさい。工夫をして、効果的に説明すること。

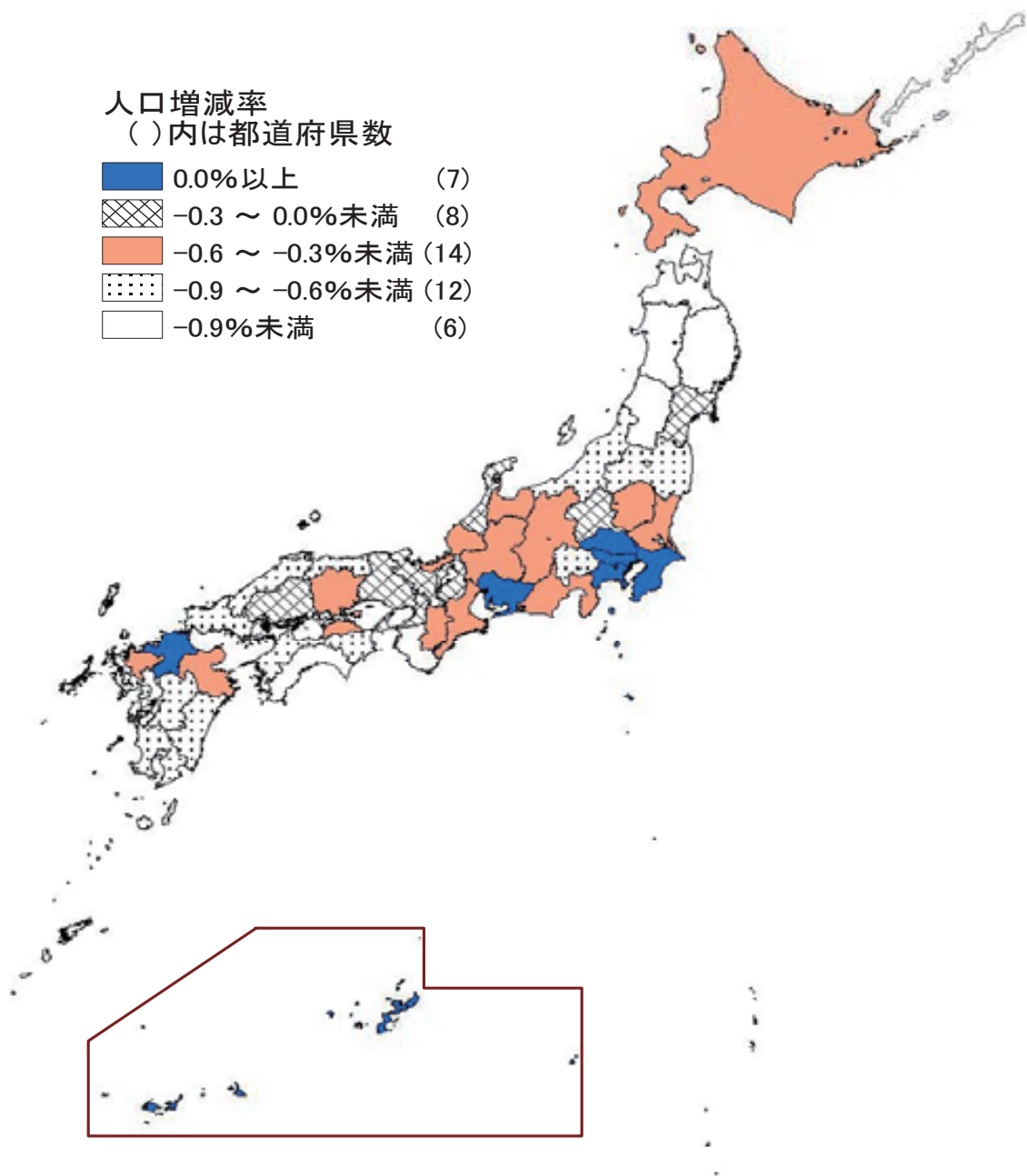
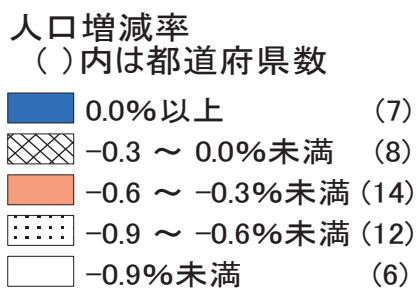
「予想される未来社会」：①グローバル社会 ②人工知能の普及

【資料 I】 我が国の人口ピラミッド (平成 28 年 10 月 1 日現在)



総務省統計局ホームページより

【資料Ⅱ】 都道府県別人口増減率



総務省統計局ホームページより

